

田さん妻 涌夫 「相模原事典」を発行 市史にない項目を重視

相模原市南区相武台に住む郷土史研究家の涌田佑さん(89)と元小学校教諭の久子さん(83)の

夫妻が、「相模原事典」

(B5判、282ページ)を発行した。200

4年4月から相模経済新聞に寄稿してきた調査・

研究の成果に「平成の合併」などを加えてまとめ

たもので、市史や県史で埋没・欠落している庶民

の風俗などの項目も詳しく掲載した。

同事典は、市内で教壇

に立つ傍ら郷土史を研究してきた久さんがテーマを提案し、現場まで足を

を運んで資料収集や聞き取りで取材した。同市内の歴史や地理、自然、史

跡・寺社、文化、観光、交通、出来事、団体、人物などの分野から約1300項目を扱い、古代から現代までの「いろいろ」を詰め込んだ。

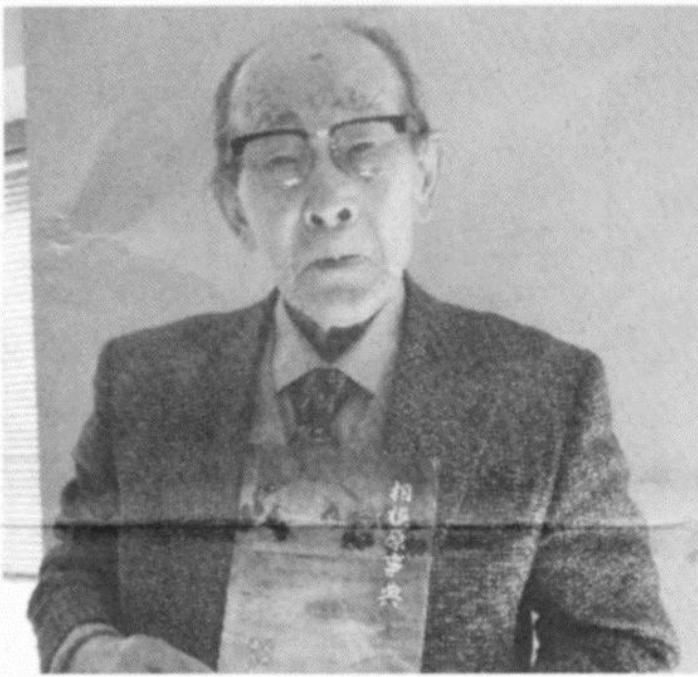
人物の掲載は故人が主だが、現市長の加山俊夫氏や旧津久井町長の天野望氏らも取り上げた。連載中に旧津久井郡(相模湖、城山、津久井、藤野)との合併があったため、4町に関連する項目の加筆などを行った。

佑さんは「相模原の歴史全体を浮かび上がらせるためには、事典が表現の形式として最適だった」と話す。写真や地図、図表などを豊富に散りばめた。中でも昭和46

(1971)年の繭生産量番付表は当時盛んだった養蚕のようすを窺い知ることができると、明治維新で掛け算九九(くく)に代わるまで寺子屋で教えられてきた「割り算九九」の表など、貴重な資料も添付した。

涌田さん夫妻は27日、相模原市役所の加山市長を訪問し、市内の図書館や市立中学校などに計50冊を寄贈する予定。市販用50部を含めて計150部を発行した。

カラー版は1部3140円。モノクロの廉価版も増刷する予定。購入の申し込みや問い合わせは、日相出版042・748・6020へ。



「相模原事典」を発行した涌田佑さん